



2022年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年5月13日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9941 URL <http://www.taiyo-bussan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松島 伸介
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部 ジェネラルマネージャー (氏名) 井坂 勇登 TEL 03-5946-8000
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第2四半期の業績 (2021年10月1日～2022年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第2四半期	10,065	29.5	132	—	120	—	79	—
2021年9月期第2四半期	7,768	△3.4	△5	—	△20	—	△10	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第2四半期	49.95	—
2021年9月期第2四半期	△7.85	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第2四半期	7,447	190	2.5	119.24
2021年9月期	7,587	103	1.3	64.95

(参考) 自己資本 2022年9月期第2四半期 190百万円 2021年9月期 103百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年9月期	—	0.00	—	—	—
2022年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,409	12.0	121	△45.9	64	△62.5	44	△61.0	28.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年9月期2Q	1,600,419株	2021年9月期	1,600,419株
② 期末自己株式数	2022年9月期2Q	753株	2021年9月期	753株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年9月期2Q	1,599,666株	2021年9月期2Q	1,327,466株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響による厳しい状況が続く中で、国内外経済社会活動が正常化に向かっており、景気の持ち直しの動きが見えているものの、ウクライナ情勢等による原材料価格の上昇や供給面での制約等により先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような環境の中、当社の主要商材である食肉関連では、牛肉は産地価格の高騰に加え、営業時間の短縮要請が解除され、客足は戻りつつあるものの、外食産業の影響を受けて厳しい事業環境に置かれております。そのような中でも新規商材等の成約により取扱数量・売上高とも増加させることができました。タイ産加工食品におきましても、新型コロナウイルスの影響による現地生産の稼働率の低迷や慢性的な船積遅延により減少したものの、荷渡の前倒しにより取扱数量・売上高とも増加することができました。

鶏肉は、産地ブラジルのレアル安で輸出価格が下がり、廉価になったことから、引き続き惣菜需要としての輸入鶏肉の需要は高く販売を強化したものの、利益の取りづらい環境の下、取扱数量・売上高ともに減少いたしました。

農産品は、大豆では産地価格の高騰があったものの、受け渡しが順調に進み、緑豆につきましても取扱数量・売上高とも増加となりました。玄蕎麦は減少したものの、農産品全体では取扱数量・売上高ともに伸ばすことができました。また、前期より取引を開始した中国のネット事業者向け商材の輸出販売が同国の潜在需要の高さもあり、取引数量・売上高ともに伸ばすことができました。

輸入豚肉に関しましては、商流等の変更があり、新たな商材開拓に取り組んでおります。コロナ渦での営業活動が制限される環境でもありましたが、取扱数量・売上高とも増加となりました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は、100億65百万円(前年同四半期累計期間比29.5%増)、営業利益1億32百万円(前年同四半期累計期間は営業損失5百万円)、経常利益1億20百万円(前年同四半期累計期間は経常損失20百万円)、四半期純利益79百万円(前年同四半期累計期間は四半期純損失10百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(食料部)

牛肉につきましても、産地価格の高騰や労働者不足等、厳しい環境下にある外食産業の影響を受けて厳しい環境下にあります。新規商材等の成約により取扱数量・売上高とも増加させることができました。タイ産加工食品におきましても、新型コロナウイルスの影響による現地生産の稼働率の低迷や慢性的な船積遅延により減少したものの、荷渡の前倒しにより取扱数量・売上高とも増加することができました。鶏肉は、産地ブラジルのレアル安で円貨での輸入価格が下がり、他の食材に比べ廉価な惣菜需要として輸入鶏肉の需要が高く販売を強化したものの、利益の取りづらい環境下におかれ、取扱数量・売上高ともに減少いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、45億46百万円(前年同四半期累計期間比5.2%減)となりました。

(営業開拓部)

農産品につきましても、大豆では産地価格の高騰や国内市況の影響を受けているものの受け渡しが順調に進み、緑豆につきましても取扱数量・売上高とも増加となりました。玄蕎麦は減少したものの、農産品全体では取扱数量・売上高ともに伸ばすことができました。前期より取引を開始した中国のネット事業者向け商材の輸出販売が中国の需要により、第1四半期程ではないものの、取引数量・売上高ともに伸ばすことができました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、45億38百万円(前年同四半期累計期間比58.2%増)となりました。

(生活産業部)

輸入豚肉につきましても、商流等の変更があり、新たな商材開拓に取り組んでおります。コロナ渦での営業活動が制限される環境でもありましたが、取扱数量・売上高とも増加となりました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、9億80百万円(前年同四半期累計期間は売上高1億円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末の資産につきましては、主に現金及び預金の減少、売上債権の増加等に伴い、前事業年度末に比べ1億40百万円減少し、74億47百万円となりました。

負債につきましては、借入金の返済及び未払消費税等の減少等により前事業年度末に比べ2億27百万円減少し、72億56百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純利益の計上及び繰延ヘッジ損益の増加により前事業年度末に比べ86百万円増加し、1億90百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前事業年度末に比べ、9億59百万円減少し、4億98百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、11億42百万円(前年同四半期累計期間は2億9百万円の獲得)となりました。これは主に、税引前四半期純利益97百万円、仕入債務99百万円の減少等による収入に対し、売上債権9億21百万円、棚卸資産4億13百万円の増加等による支出によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、2百万円(前年同四半期累計期間は8百万円の獲得)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2億45百万円(前年同四半期累計期間は2億29百万円の使用)となりました。これは主に、短期借入金2億36百万円の純減によるものです。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の通期業績予想については、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う業績への影響が不透明であることから、現段階では2022年2月10日発表の予想数値を据え置いております。今後状況の進展及び事業の進捗を踏まえ、適正かつ合理的な算定が可能となった段階で、修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,881,724	498,945
受取手形及び売掛金	3,117,143	4,038,464
商品	1,788,663	2,202,453
その他	255,101	188,027
流動資産合計	7,042,633	6,927,891
固定資産		
有形固定資産	263,966	236,224
無形固定資産	2,859	2,859
投資その他の資産	278,386	280,376
固定資産合計	545,212	519,460
資産合計	7,587,845	7,447,352
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	693,479	793,140
短期借入金	6,135,887	5,898,948
未払費用	237,648	325,210
その他	241,528	67,919
流動負債合計	7,308,545	7,085,218
固定負債		
退職給付引当金	130,162	123,805
その他	45,231	47,570
固定負債合計	175,393	171,375
負債合計	7,483,938	7,256,594
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,414,931	1,414,931
資本剰余金	1,376,871	1,376,871
利益剰余金	△2,694,368	△2,614,462
自己株式	△969	△969
株主資本合計	96,465	176,370
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	7,441	14,386
評価・換算差額等合計	7,441	14,386
純資産合計	103,906	190,757
負債純資産合計	7,587,845	7,447,352

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
売上高	7,768,834	10,065,648
売上原価	7,569,355	9,665,405
売上総利益	199,478	400,243
販売費及び一般管理費	204,728	267,556
営業利益又は営業損失(△)	△5,249	132,686
営業外収益		
受取賃貸料	5,243	4,867
投資有価証券売却益	1,017	—
助成金収入	6,260	1,809
為替差益	6,330	15,516
その他	1,303	2,049
営業外収益合計	20,154	24,242
営業外費用		
支払利息	30,269	27,855
その他	4,993	8,431
営業外費用合計	35,262	36,287
経常利益又は経常損失(△)	△20,357	120,641
特別利益		
固定資産売却益	16,299	—
特別利益合計	16,299	—
特別損失		
減損損失	—	23,396
本社移転費用	4,868	—
特別損失合計	4,868	23,396
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△8,927	97,244
法人税、住民税及び事業税	963	18,064
法人税等調整額	538	△726
法人税等合計	1,501	17,338
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,428	79,905

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△8,927	97,244
減価償却費	6,700	4,344
減損損失	—	23,396
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,199	△6,356
受取利息及び受取配当金	△78	△41
支払利息	30,269	27,726
為替差損益(△は益)	△429	△3,006
固定資産売却損益(△は益)	△16,299	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△822	—
売上債権の増減額(△は増加)	△596,079	△921,321
棚卸資産の増減額(△は増加)	603,776	△413,790
仕入債務の増減額(△は減少)	28,176	99,660
前渡金の増減額(△は増加)	△37,921	86,645
未収消費税等の増減額(△は増加)	98,021	△16,785
未払費用の増減額(△は減少)	12	87,561
未払消費税等の増減額(△は減少)	92,086	△151,868
その他	35,346	1,044
小計	237,031	△1,085,544
利息及び配当金の受取額	78	41
利息の支払額	△28,096	△25,505
法人税等の支払額	△1,927	△31,614
法人税等の還付額	2,169	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	209,255	△1,142,623
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,302	—
有形固定資産の売却による収入	26,040	—
投資有価証券の取得による支出	△151,074	—
投資有価証券の売却による収入	151,897	—
その他	△2,092	2,456
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,468	2,456
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△220,879	△236,939
長期借入金の返済による支出	△8,666	△8,680
財務活動によるキャッシュ・フロー	△229,545	△245,619
現金及び現金同等物に係る換算差額	429	3,006
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△11,391	△1,382,778
現金及び現金同等物の期首残高	1,470,162	1,881,724
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,458,771	498,945

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	4,801,035	2,867,255	100,544	—	7,768,834
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,801,035	2,867,255	100,544	—	7,768,834
セグメント利益又は損失(△)	29,582	60,832	△11,546	△84,117	△5,249

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△84,117千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	4,546,772	4,538,416	980,459	—	10,065,648
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,546,772	4,538,416	980,459	—	10,065,648
セグメント利益又は損失(△)	172,586	66,141	8,106	△114,147	132,686

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△114,147千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	全社	合計
減損損失	—	—	—	23,396	23,396

(注) 「全社」の金額は、セグメントに帰属しない全社資産に係わる減損損失であります。